

今週の途中下車は？ (2009年3月7日放送分)

下線の部分をクリックすると詳細情報があります

今週は伊東線・伊豆急行でぶらり旅！

本日は、今年120年ぶりにリニューアルした
熱海梅園からスタート！
「ホ〜ホケキョ♪」梅にウグイスの正体は谷村さんの笛の
音でした。
梅を堪能し、熱海から早咲きの桜を求めて旅に出ます。

(最寄駅：熱海)



<電車に乗る>



伊東線に乗り込み最初の途中下車は伊東。
目の前に広がる海を眺めながら歩いていると、
なにやら人だかりが出来ています。
近づいてみると干物の試食販売会が行われていまし
た。
そこで出会ったひもの開き日本一の技に圧倒される谷
村さん！
潮風浴びながら干物をみていると、
その並びに一際巨大な干物の数々を発見！
話を聞くと、並ぶブリの干物などは
今日オークションで販売するというので、
俄然張り切って競りに参加！見事競り落とした谷村さん
は、
その場でブリの干物を焼いてもらい、集まった人たちで
味わいました。

<歩いてぶらり>

気持ちの良い伊東を代表する東海館の川沿いを抜け、
さらに伊東の街ぶらり。
すると一見綺麗なブティックを思わせる建物が目にとまりま
したが、
中を覗くと手袋を縫う人と、奥にはずらりと並ぶ手形を発
見！
こちらは、社長の田村さんが脳溢血で倒れた自身の経験
に基づいて
リハビリ機を作っている会社でした。
同じ苦しみを持つ人達を救いたいという社長の思いに、
胸を打たれた谷村さんでした。



<電車に乗る>



続いては伊豆高原で下車。
お洒落なペンションが建ち並ぶ住宅街を歩いていると、
民家の庭に“SPACE WALK”と書かれた物を見
長さ10m以上あるかと思う物体に期待し、伺ってみるこ
とに。
表に周ると万華鏡館があり、中には変わり種の万華鏡
が並んでいます。
そして“SPACE WALK”に驚きの谷村さん！
万華鏡の中で不思議な感覚を味わいました。

<歩いてぶらり>

さらに伊豆高原の住宅街を散策していると、
佇まいのよいお寺を発見します。
神社・お寺マニアの谷村さんはさっそくお参りに。
すると、途中にレールらしきものを発見！
「お寺にレール？」と、不思議に思った谷村さんは、
レールを辿って歩きます。
お寺だと思った建物は自宅で、それを周遊するレールは

手作りミニSLの線路でした。
本物さながらのSLに思わず子供心を揺さぶられる谷村さん。
汽笛の音に集まってきた近所の人達と共にいざ出発！
童心に帰ったひと時でした。



<電車に乗る>



車窓から一望できる海に誘われて、伊豆稲取で途中下車。
歩いているうちに、いつのまにか稲取の港にでました。
早春の港を楽しみつつ散策していると、足湯を発見！
旅の疲れが取れそうと、一時の休息を楽しむ谷村さん。
すると壁に井ぶりの写真が貼ってあるのに気づきます。
「足湯と井ぶり？」と不思議に思い、さっそく訪ねてみることに。
ここは1Fで足湯につかれ、
2Fでは地元でとれた新鮮な魚を使った井ぶりが楽しめる処。
井の締め、特製ダシをかけて“まご茶漬け”として頂きました。
稲取の幸を堪能した谷村さんでした。

<歩いてぶらり>

伊豆稲取の街をさらにぶらり。
すると、建物の店先に置かれた
西郷隆盛直筆掛軸、ケネディ大統領が唄う…など
一見怪しげな看板を発見！「ここは何屋？」と、
不安と期待で店に入ってみることにしました。
こちらの先祖が昔海運業を営んでおり、
当時からあった蔵を開けてみたところ
お宝がザクザクと出てきたので、お店に並べたそうです。
主人と意気投合した谷村さん！
様々な時代の貴重な歴史に触れた瞬間でした。



<電車に乗る>



続いての途中下車は河津。
桜を探しての旅、早咲きの桜を求めてぶらり。
車通りの多い道を歩いていると、
遠くの方で鮮やかに咲く一本の桜を発見！
立札には河津桜原木と書かれています。
昭和30年代初期にこの原木が発見され、河津桜は生まれました。
今や有名となった河津の桜のルーツを知り、
満開の桜の下で少し早い春を感じた谷村さんでした。

<歩いてぶらり>

さらに河津の街をぶらり。河津川の河口に出た谷村さん。
サーファーを横目に歩いていると、
男性が何かを担いで作業しているのを見発見！
海に流れついた流木のようなのですが
「何の為に？」と疑問に思い訪ねてみることに。
流木ではなく、“遊木(ゆうぼく)”と言う男性。
興味をもった谷村さんは車に乗せてもらい、
遊木の使い道を見せてもらうことに。



<車に乗る>

車で移動する事15分、作業場に到着しました。
海で出会った八代さんは、
拾った木の波に揉まれて自然に出来た木のラインを活かし
椅子やテーブルを作っています。
「二つとして同じ物は作れない。
自然の恵みに触れ、また新たな命を吹き込んでいく。」



これが“遊木”だ」と言います。
谷村さんは、[遊木の椅子](#)に座って、見晴らしの良い景色を一望！
そんな至福の一時を感じつつ、今回の旅を締めくくりました。

もどる